

## 特別寄稿

特別寄稿 モルディブレポート(2)

# モルディブレポート (2)



北嶋 信義 (昭和47年建築科卒)

## Vol.2 施工編

### ●着工

平成20年11月頃の見通しでは、ジャバニーズエリアの着工は比較的早いだろうと思っていた。しかし、工事に必要な輸出した木材や、中国からの竹材などの到着が遅れ、それらの資材が現地に着いたのが平成20年12月初めだった。建設資材が首都のマーレ港に着いても、港が小さいため荷下ろしの順番待ちで、工事のために日本の職人達と現場に乗り込んだのは平成21年1月12日だった。

資材の確認を終え、早速工事の進め方を検討した結果、「島」から最も遠い『ビューテック』から始める事となった。

現地で用意した青空にたなびく五色旗は、モルディブの国旗色も含まれていたため、モルディブの現地人を非常に興奮させた『建て方』となった。『餅撒き』こそ出来なかったが、日本人と現地人との心が一つになった瞬間だった。



モルディブ人の心を掴んだ『五色旗』

### ●現場での作業員の暮らし

現場作業員の多くは、バングラディッシュ人とインド人で、彼らはそれぞれ自国で待つ両親に仕送りするため、多い人で一日に14時間も働く人たちだった。(能率の低下は否めない)

出稼ぎに来る場合は、モルディブ国に米ドルで400ドル程度(彼らの約1.5か月分の給料に相当)の『保証金』をあらかじめ納めてから簡単なパスポートが発行され、入国を許されるらしい。飯場はただ寝るだけで、食事も粗末で、楽しみなどは、ほとんど無いと言う。ある作業員の一日は、朝6:00起床、6:30朝食、7:00には現場作業にかかる。午前中の『一服』は無しで、12:00昼食、昼休みは1時間。午後1:00に作業再開、午後4:00に『ジースタイン』午後7:00の夕食は作業現場にご飯(バサバサの長粒米)とカレーで、どちらもボリまたはブリキの『バケツ』にいれて運ばれる。夜は午後8:00作業再開で、午後11:00頃まで続けられる。「明日のために作業状態を見もらいたいので現場に来てください」と夜10:30頃に現場に呼ばれることが結構あった。

モルディブでは金曜日が休日で、基本的に全体だが、出稼ぎの職人は金曜日午後2:00まで休み。その前日の木曜日は、夜間勤務手当(日本円で500円程度)が出る「徹夜作業」となるのが、職人たちの悩みであり、楽しみの一つでもあると言う。



作業員の『飯場』



作業員の休日(くつろいだ様子)



日本の職人の食事を作る調理人



日本人向けの食事

### ●進捗

#### <サンブルなしには進まない工事>

現地の職人に「サンブルを早く示してください」と言われ、「(サンブルを示して)このとおりに造ってください」と言っても初めて見る造作に、戸惑うばかりで、作業スピードは鈍い。めずらしく進んだと思ったら、寸法が違っていてやり直しということが多かった。

結局、オーナーから「難しい造作は、日本の大工さんでなければ出来ないので頼む」と言わされたのは工期の迫った、平成21年3月7日の夜だった。



人海戦術で徹夜して建てた『芯柱』

(徹夜作業は休日の前日である木曜日と決まっていた)



手本を示す日本の大工さん。『ノミ』を使うことが少ないせいか、何かぎこちない。1本のノミや金槌を3~4人で使うバングラディッシュの職人。ノミの使い方は日本人より巧い。



手間のかかる「草」タイプ軒天井の造作



椰子の葉と割竹でつくった囲いのサンブル

#### <シンボルカラーと手作り和紙>

「塗料等は、世界中の材料が首都マーレで入手できるから心配ない」と言われて、買いに行ったが常備品以外は注文してから約1か月の納期というので、やむを得ず塗装色は、基本色の藍、赤、黄、黒、白を現場で調合しなければならなかった。「真」タイプはフォーマルが基本なので『濃紺』、「行」タイプはセミフォーマルの『濃茶』、「草」タイプはカジュアルな『モスグリーン』等をポイントカラーとして、それぞれ立会って調色した。基本色を調合してあらわゆる色を創り出すことは、中学時代にプラカラーで経験済みだったが、大量につくるには、それなりの苦労が必要だった。壁面は『和紙』貼りだったため、あらかじめ日本で必要枚数を用意していったが、手漉きなので色むらが多く、同じ色の『和紙』を現場で選別すると、枚数が足りず、これも調合した塗料で着色してから仕上げた。教職員を退職してから和紙を漉いた東成瀬村の飯泉さんや、和紙貼り職人の佐藤さんには大変難儀をかけてしまった。



工事で汚れた柱を洗う海中作業員



メイン通路下の給排水管



現場加工を行うガラス職人たち

和紙貼りの職人佐藤(左)さん  
和紙をつくった飯泉(右)さん

### ●竣工

「ベリーエクセレント!」 オーナー絶賛の出来栄え。試行錯誤の末、工事が完成したのは、平成21年3月25日だった。3日後にオープンセレモニーを控えてオーナーの現場視察があり、日本エリアの建物を見て発した言葉は「ベリーエクセレント!」だった。



月刊「ダイバー」7月号に掲載されたロマンチックな夜景(上)と客室「草」タイプのリビング・ベッドルーム。早朝や夕方、床のガラスフロア下に、体長1m程の魚が小魚を追う様子を見る事ができる(下)



客室「真」タイプ玄関回り。オーナーが特別に造らせた『灯籠』や石組はとても樹脂製には見えない。



秋田杉で造った茶室(ティーセレモニールーム)内部



日本食レストラン内部(レストランの名前は「竹取物語」を進言したが、北の島「日本」と、担当者名が偶然同じという理由で、『ジャバニーズレストラン北嶋』と名付けられた)

**株式会社  
渡辺佐文建築設計事務所**

代表取締役会長 渡邊 佐文 (A 25卒)

〒010-0954 秋田市山王沼田町6-8 TEL 018-863-8431